

被爆したアオギリ

〔地図番号24〕

移植年月日

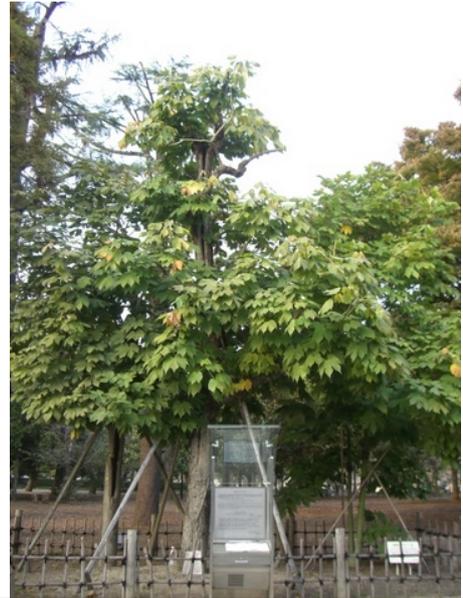
1973（昭和48）年5月

アオギリ

樹皮が緑色で葉がキリに似ているので、青桐と名がつけました。

幹や枝は緑色で小枝はやや太くなります。

枝先に30～50cmの枝分かれした花の茎を出し、6～7月頃、黄色い花を数多く咲かせます。



特記事項

1 被爆前のアオギリ

爆心地から約1.3km離れた、中区東白島町の広島逓信局の庁舎（現在の日本郵政グループ広島ビル。以前の中国郵政局）の中庭に1933（昭和8）年4月、4本のアオギリの苗が植えられました。

2 熱線・爆風の影響

爆心地方向にさえぎるものがなかったため、熱線と爆風をまともに受けました。そのため枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けました。4本のうち、1本は焼けてしまいました。

3 奇跡的な再生

枯れ木同然だったこの木は、翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で虚脱状態にあった人々に生きる勇気を与えました。

4 平和記念公園への移植

中国郵政局の建替えに伴い、1973（昭和48）年5月、現在の場所へ移植され、原爆の被害を無言のうちに語り続けています。

移植された3本のうち、1本は枯れてしまいました。その後、二世と確認できる苗木が発見され、現在は3本です。

5 アオギリ二世

移植で枯死するのではないかと心配されたアオギリは、その後も毎年、種子をつけています。これらの種子は国内外へ贈られ、多くの二世が元気に育っています。

学校の平和学習等に活用してもらうため、広島市は毎年3～6月、9～11月にキョウチクトウ（広島市の花）又は被爆アオギリ二世の苗木を配付しています。希望する学校は資料館のチケット売場又は総合案内を訪ねてください。